

TSUMAGOI MIRAI TSŪSHIN vol.2

参加者インタビュー

TSUMAGOI VILLAGE SHIPSに参加してくれた
村民の方に参加してみての感想をお聞きました。

村を離れて気づく孺恋村の魅力がたくさんありました。「こんな田舎」なんて言わないで、孺恋のことをみんなが好きになってくれたらいいなと思いました。

【Uターン/新規事業者】
河野 のどかさん

移住者/ジオガイド
工藤 聡さん

村内の宿泊施設のレポート率がとても高いようで、外の人を迎えるおもてなしの心や提供できる居心地の良さはこの村の特徴なんだと思いました。

色んな方とお話して、私自身も漠然と農家をやるのではなく、キャベツを通していろんな人と接していきたいなと思いました。

【キャベツ農家】
千川 大地さん

今回のワークショップで決まったスローガンを、郷土資料館の展示と絡めながら皆さんと一緒に考えていこうな活動をしたかったです。

日本の中で競いあっても変わらないので世界を目指すべきかなと。何かの「世界一」を目指す意気込みでやりたい。

【宿泊施設支配人】
古賀 雅基さん

カフェ経営
藤本 卓さん

このままじゃダメなのは肌感覚では感じていましたが、データを見て改めて現状の危うさを知ることができました。自然環境を活かすためにも経済力をつけていかないとけない。

孺恋郷土資料館館長
関 俊明さん

「存在意義を問う」ということに刺激を受けました。自然が、観光がいったところから一歩踏み込んで孺恋村らしい発展の方向性が見える予感がしました。

金融機関勤務
梨木 直毅さん

長く住まれている方には当たり前のことが、移住者にとってはすごく価値があることがたくさんあります。孺恋村らしく孺恋村を育てていく一助になりたいと思いました。

「存在意義を問う」ということに刺激を受けました。自然が、観光がいったところから一歩踏み込んで孺恋村らしい発展の方向性が見える予感がしました。

移住者/孺恋あいさいの村づくり協議会
工藤 恵美子さん

熊川村長からのメッセージ



孺恋村長
熊川 栄

孺恋村の未来について幅広い村民の皆さんの意見を聞いて、「美しい。たくましい。みずみずしい。」というひとつの方向性が見出されました。「美しい」というのが一番頭にあるということは非常に孺恋村らしいなと思っています。3つのキーワードは、すでにこの村に備わっている魅力だと思いますが、この理想の姿を守り、発展させていくためには、自然の美しさや地域産業の重要性について村に住む一人ひとりが認識し、その保護や活性化に向けてのアクションを起こすことが大切だと思います。村として、若者や女性が社会で活躍できる環境を整えることは欠かせません。さらに、基幹産業であるキャベツの生産量日本一を守り続けるために労働力の確保や技術の導入も必要になるでしょう。やるべきこと、できることはまだまだあります。ぜひとも役場や村民、有識者、村を愛してくれる方々が手を取り合って、10年後、30年後を見据えたアクションプランを練り上げてください。一緒に持続可能な村をつくっていきましょう！

今後のTSUMAGOI VILLAGE SHIPS

令和6年度のTSUMAGOI VILLAGE SHIPSは、「美しい。たくましい。みずみずしい。群馬県孺恋村」を体現していくべく、それぞれにおいてどんな具体的な活動ができるかをディスカッションし、行動に移していく予定です。また、村全体の方針を定める最上位の計画である「総合計画」とそれを実施するための「総合戦略」とも協調して、村が一丸となつてうねりをあげて動き出す最終準備にかかります。令和6年度もTSUMAGOI VILLAGE SHIPSにご期待ください。

みんなで育てる孺恋村 TSUMAGOI VILLAGE SHIPS 孺恋村ミライ通信 vol.2

2024年3月31日発行
発行：孺恋村役場 未来創造課
孺恋村大字大前110番地 tel:0279-96-1257



2030年の孺恋村を想像してみよう。 孺恋村ミライ通信

1年ぶりです、ごんちには、2023年度の孺恋ビレッジシップスプロジェクトでは、村の魅力を改めてさまざまな角度から出し合ったり、村外からの期待を想像したりしながら、この先一緒に目指していきたい未来像を描いた1年になりました。今年の孺恋村ミライ通信は、プロジェクトの結果導き出された理想の未来像を実現していくために「どうしたらいいか？」と一緒に考え、行動していくための土台になります。永久保存版です！

第2号

みんなで育てる孺恋村



孺恋村役場

目指せ!理想のアイランド! 嬭恋ビレッジシップス 2年目の航海中

嬭恋ビレッジシップス

2023年に目指したのは…

嬭恋村の理想のアイランドを描くこと!

嬭恋村の風土の魅力って何だ?

- キャベツ
- 浅間山
- うまい空気
- 四季の美しさ
- 若者がチャレンジできる
- 助け合いおてんま

両想いシート

いろいろなやり方で深掘りしてみよう!

ごうなりたい

ごう思っている

ビジョンピラミッド

みんなが考えている嬭恋村が大切にしないといけないのはどうもこの3つのようだ!

自然

チャレンジできる風土

にぎわい

みんなももっとワクワクできる工夫ってないだろうか?

理想に向けてわたしたちが何をしたらいいかわかるといういな

みんなが覚えやすいよね

じゃあ、こうしよう!!

高らかにシン嬭恋村を宣言し、嬭恋らしい合言葉をつくらう!

そして、嬭恋村に暮らすみんながどんな行動を大切にするか決めよう!

コレも言いたい

アレも言いたい

コレもいいよね

みんなの想いをくみとれているかなあ

数ヶ月後

これがみんなの目指す理想のアイランド像だ!!

美しい。たくましい。みずみずしい!!

群馬県嬭恋村

いいねー!

こうして嬭恋ビレッジシップスはさらに航海を進めたのであった

<決まったものは次のページへ>



TVS VISION

孺恋村の誇り

孺恋村を孺恋村らしく輝かせている
根本にある価値を3つの単語で表現しました。
胸を張って言えるように、
一語一語にあえて「。」をつけて
歯切れを良くしています。



美しい。たくましい。みずみずしい。 群馬県孺恋村

美しい。

浅間山に抱かれた大自然の美しさをそのままに残し、
そんな豊かな地に、更に磨きをかける人たちの
美意識と佇まい、凛とした姿勢を表現。

たくましい。

噴火や台風災害を乗り越え、村民が協力して
復興させてきた歴史。またここからも勢い衰える
ことなく孺恋村らしく発展する意志を表現。

みずみずしい。

特産物であるキャベツの新鮮さを連想させるとともに、
若者たちが活躍し、いつも新しいニュースに溢れる
フレッシュな様子を表現。

TVS PROMISE

孺恋村の約束

「美しい。たくましい。みずみずしい。」
そんな孺恋村を守り、発展させていくために
大切にしたい姿勢を宣言としてまとめています。

私たち孺恋村に暮らす仲間、将来にわたってこの村の豊かな自然と共生し、
いつも可能性に目を向け、新しい発想と挑戦を繰り返しながら、
孺恋村を孺恋村らしく発展させていくことをここに宣言します。

TVS ACTION

孺恋村の意志力と行動指針

一人ひとりがどんな意欲を持ち行動をすると理想の将来像に
近づけるかを整理。村で行われるさまざまな活動で
これらの「意欲」が体現されていれば理想の将来像に近づいていきます。

S = 「Synergy」(協働・相乗)

世代や土地を越えて交流し共に高める意欲

H = 「Heart」(愛情・本質)

多様な価値観を尊重し共に認める意欲

I = 「Identity」(独自性・個性)

人と自然と文化を誇り共に尊ぶ意欲

P = 「Passion」(情熱・感情)

踏み出す仲間を村全体で共に応援する意欲

S = 「Sustainability」(持続可能性)

美しい孺恋村を共に未来へ受け継ぐ意欲



孀恋ビレッジシップス 未来を語り合う座談会

孀恋村が目指す理想とそのために必要なアクションってなんだろう？ 2年目のTVSではそれを深掘するワークショップを行ってきました。

その結果出来上がったのが

「TVS VISION」「TVS PROMISE」「TVS ACTION」。
プロジェクトに参加していたメンバーや孀恋村に
熱い想いを寄せる5名と今年の成果を振り返りました。

「美しい。たくましい。みずみずしい。群馬県孀恋村。」についてどう思いますか？

【長谷部さん】このスローガンは中の人と外の人が持つ村に対するイメージがすごく一致しているなというのが、まず第一印象ですね。

【佐藤さん】私もこの3つのワードにTVS参加者の声がうまく集約 うまくできてるなと思いました。うちはキャベツ農家ですので「みずみずしい」の部分がすごくしっくりきています。52年連続キャベツ生産量日本一は誇らしいことなのです。

【今泉さん】僕は地域おこし協力隊で神奈川県から来ている「外からの目線」ですが、孀恋村を3単語で表したらこうなるんだろうなと素直に思いましたね。特に観光客の方、別荘の方など村民以外の方はみんなこれに納得だと思えます。一方で、村内の人はどう見るのかなあ。僕はこの村が好きだけど、村の人は「こんな田舎なんて」と結構言うんです。外の人が見ている魅力と村の中の人が見ている村のよさのギャップを埋めないといけないなと思いました。

【河野さん】私はUターンで孀恋村に帰ってきたんですが、ここに帰ってこようって思った要素がこの3つの言葉にすごく表現されてるなと感じました。正直、帰ってくるつもりはなくて、外でバリバリ働こうとずっと思っていたんですが、2年前に帰省したタイミングで冬山に登ったんです。その時に山からの眺めを見て「ここには都会にあるどんな娯楽なんかより価値がある」って思っちゃったんですね。それがUターンの大きなきっかけでした。東京で5年、大阪で6年暮らす中で、各地に旅行に行ったりしているいろんな田舎を見てきましたが、どうしようもないところも正直ありまし

た(笑)。そこと比べたら孀恋村には新しいイベントをやっている人がたくさんいたりとか、まだまだやれることがいっぱいあるなっていうのはすごく感じています。

【松本さん】本当にこの村で生きるにはたましくなければ絶対無理だと思うので、「たくましい」の単語が入ったのは孀恋村らしいなと思いました。今まで自分は「みずみずしい」という表現は使ったことがなかったんですが、吾妻郡は関東の水の源流ですので、本当にみずみずしさのあるところだと思います。ただ、さっき今泉さんも言っていたように村の人たちもこの魅力をちゃんと共通理解した上で村づくりを進めていけるといいなと思っていました。



理想の姿に近づくために超えないといけないと思うことは？

【佐藤さん】農業の視点では他の農産地に比べれば後継者もいますし、農家が大型化していて良い面もあります。次の課題はいかに組織的に農業をして 定住者を増やしていけるかということだと思います。あとはキャベツの価値をもっともっと高めたいですね。先日グリーンツーリズムの関係で視察させてもらったんですが、観光と農業が協力をきたら発想にも「みずみずしさ」が生まれる気がします。キャベツマラソンもありますが、まだまだできる



はずです。
【河野さん】会社を作って、新しいことをやっていこうって決めたのは、常に新しいことを考えていかないと社会は常に変わっていきますし、時代に取り残されていってしまっはいけないと思ったからです。でも、大事にしないといけないのは、自分たちだけが突き進むんじゃなくて村の人から共感を得ながら進むことだと思います。

【長谷部さん】大事なのは「当事者意識を持つこと」だと思っています。当事者意識を持つために、例えば行政はいい情報だけではなく、村のネガティブな状況も発信してくれるとお尻に火がついて頑張れるかもしれません。現状も理解しつつも、例えば、「美しい」をもっと美しくするためにどうしたらいいんだろう？という議論が自発的で起こる。そんな風になるといいなと思っています。

【松本さん】超えなきゃいけないのは行政と民間の壁です。行政との連携が大事だと思います。要は、民間で頑張ろうとしてる我々みたいな人たちの力をどんどん使ってほしいなと思うんです。ワンチームで村盛り上げてるんだぜ！っていうふうには、外の人にも見えることも大事なかなと思いますね。

【今泉さん】僕にとっては田舎暮らし自体がもう理想の姿なんです。とはいえ、いま、地域おこし協力隊として村を思う存分楽しむ期間だからこんなことを言っていることも自覚しています。正直言って、今僕がやっていることって仕事にしにくい、もっと言えば、食っていくんです。TVSのスローガンに掲げた理想を追求するためにも、まずは、安定した暮らし＝雇用をつくっていくというのは村として超えないといけない壁ですね。

TVS VISION を実現するために、今後必要と
なってくるアクションとは？

【松本さん】自分がもう40のおっさんだからこそ「みずみずしいこと」をやっていきたくていう風な気持ちです。グリーンツーリズムと古民家再生に力を入れていく村作りの有志の会が民間主導で発足しましたので、自分もその活動にしっかり関わっていく予定です。そこでも行政と民間がタッグを組んで進んでいけたら強いなと思ってます。

【今泉さん】自分は地域おこし協力隊なんですけど、地域おこし協力隊って全力で村を楽しんでいるの大事なことだと思っています。遊びなんですけど本気で。その楽しんでいる姿を見て村の人が喜んでくれたり、村に誇りを持ってくれたり、私にできることはそんなことでしょか。

【河野さん】「美しい。たくましい。みずみずしい。」は私たちが思っているだけじゃ何も生まれませんので、まずは1ミリでもいいから動くことが大事だと思います。外への発信もですが、まずは皆さんの村の人に知ってもらいたいですね。さっきも当事者意識という話がありましたが、まず自分たちが同じ認識を持って、仲間を増やして、外に働きかけていけば今以上に魅力が伝わると思います。先日、台湾からの旅行者11名にモニターツアーに参加してもらったのですが、草津にも軽井沢にもないアクティビティが孀恋村にはあると評判でした。それくらい外の人には魅力的な場所です。

【長谷部さん】一事業者としては、宿として質の高いサービス、商品を提供し続けること尽きます。質というのは独自性ですね、ここしかない何か。ライフスタイルだったり田舎暮

らしだったり、そういったところに関心を持っていただけるとすごく嬉しいなって思いますね。

【佐藤さん】究極的には、この村で生まれた人たちが農業法人に就職したいなって思わせる何かをしていかなきゃなと思っています。今泉さんから仕事の話がありましたが、キャベツの会社を選べるようになればUターンが増えるんじゃないかと思えます。最近知った言葉ですと「農業のエンタメ化」はひとつのキーワードかもしれません。

【松本さん】キャベツピックやりたいよね。キャベツとスポーツのコラボレーション。去年スカイランの大会でキャベツをパトンの代わりにしたらものすごい盛り上がりましてよね。キャベツとスポーツと相性がいいってことがわかってしまったので、孀恋村をキャベツピックの発祥の地にして世界大会もやりたいです。



10年後の孀恋村の村民へのメッセージをお願いします。

【河野さん】「昔は良かったね」になっていないでほしいですね。「今の孀恋最高！」って言えるように今できることをやりたいなって思っています。あとは、すごい個人的な話ですが、夫は広島の人で、大阪で知り合って、仕事辞めさせてまで連れてきちゃったっていう責任があるので、ここにきて

よかったって思ってもらいたいです(笑)。

【佐藤さん】10年後となると我が家の1番上の子はもう成人して、もしかしら都会で遊んでるかもしれませんが、彼女が外から孀恋を見た時に、面白くて目が離せない村にしておきたいですね。

【長谷部さん】若い人が主役になっている村であってほしいですね。先人が決めたことに囚われずに、その時代の価値観を優先して進んでほしいなって思っています。若い人のアイデアを進めてほしいです。

【今泉さん】やっぱり最初に孀恋村に来た時の感動って今でも忘れられないものだったので、僕個人としては今のまがが続いてほしいですね。10代、20代の若い世代の人が主役でいいんですが、個人的な願いとしては「美しい。たくましい。みずみずしい。」を存続させてもらえたらうれしいかなあ。さっき長谷部さんがおっしゃってたんですけど、悪い情報を開示してお尻を叩くみたいな。すごい大切なことだなと思いました。悲観的ではあるものの、今変われば10年後には十分好転する可能性だってありますから。

【松本さん】この村にいる人たちが、孀恋村に対して、そして自分自身に対しても誇りを持って胸張って生きてほしいです。今、孀恋村といったら「キャベツの村」というのが浸透していますが、10年後はキャベツ以外のものも出てくる引き出しの多い村になってほしいですね。自分は大学で地理学を勉強していたのですが、この村は立地的に、我々が頑張る頑張らないに関わらず恵まれた場所にありまして、そういう意味で、10年後は意外にいまよりも元気なんじゃないかなとも思っています。楽しみです。

座談会 参加メンバー



長谷部 武さん

ご夫婦二人三脚で宿「六花」を営み、こだわりのおもてなしを提供する。



佐藤 哲哉さん

つまごいみのリフォーム代表。キャベツ農家を営む。キャベツアイス販売中。



松本 大さん

日本スカイラン協会の代表理事として競技を盛り上げる傍ら、村も盛り上げる。



河野 のどかさん

15年ぶりにUターンで孀恋村に戻り起業。孀恋の美味しい野菜が食べられるコミュニティ食堂を準備中。



今泉 達也さん

地域おこし協力隊として神奈川県から孀恋村へ。狩猟とコーヒーを生業にする。